

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「特長ある一貫教育の創出」

提出日 2023年2月8日

 長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

 常任理事(一貫教育)
林 隆敏
(総務部)

1. 長期戦略のテーマ

| 超長期ビジョン | 長期戦略(テーマ名) | 統轄部署 |
|---|-----------------|------|
| 4 総合学園と一貫教育 | (4) 特長ある一貫教育の創出 | 総務部 |
| 内容 | | |
| <p>関西学院の一貫教育は、16年一貫で「キリスト教主義にもとづく全人教育」を実践し、在学中は他の児童・生徒・学生に、大学卒業後は社会により良い影響を与えることのできる人材(=コア人材)を輩出することが目的である。</p> <p>学院の一貫教育のあるべき姿としては、初等部、中学部、高等部、千里国際中等部・高等部で学んだ者は、本大学に進学して社会に出ていくことを理想とする。大阪インターナショナルスクール(以下、OIS)においては、世界のインターナショナルスクールとしての価値をさらに高め、本大学や千里国際中等部・高等部をはじめとする各学校のさらなる国際化を牽引する。</p> <p>特長としては、「キリスト教主義に基づく全人教育」で「学んだことや培った自分の力を他者や社会のために役立てることのできる関学人」、つまり「Mastery for Service を体現する世界市民」を育てることにある。この特長を伸ばすためには、学院出身の教員を輩出し、それらの教員が学院内の教壇に立ち、児童・生徒・学生に「関学とは」を語り続ける必要がある。</p> <p>実施計画レベルでは、高等部が受験のないメリットを最大限に生かした「大学での学びの先取り」を実現することで、大学1年生段階で早期に将来への視野を広げること(例えば留学)が可能となり、その後の成長を推進することが想定される。ただし、高等部での学びはあくまでも3年間で完成するということもあり、すべての生徒ではなく、部分的な適用を企図している。</p> <p>授業以外の活動では、「キャンプ教育」などを通じ、「関学とは」を知ることが重要である。また、大学生によるメンター制度(大学生が児童・生徒への指導者・助言者となる枠組み)を確立し、児童・生徒の補習サポートや部活動のサポートを通じて、「お互いに関学を知る」ことも非常に有効である。</p> <p>【フェーズⅠの Total Review】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初、各学校それぞれの課題を解決するための中期計画が策定された。 ・各学校が、特長ある一貫教育を推進する新たな実施計画をまだ立案できていない。 ・「大学生メンター制度」など高等部で成果が出ている施策の中学部への展開を検討する必要がある。 <p>【フェーズⅡに向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特長ある一貫教育の実現に向けた新たな具体策の検討 | | |

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「特長ある一貫教育の創出」

提出日 2023年2月8日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

常任理事(一貫教育)
林 隆敏
(総務部)

指標 1

| 指標 | 内容 | | | | | |
|----------------|---|---------------------------|----------------------|--|----------------------|--|
| 指標名 | 内部進学者における有名 400 社への実就職率 | | | | | |
| 定義・算式 | 内部進学者・400 社就職者数 ÷ [内部進学者卒業(修了)者数 - 大学院進学者数] × 100 | | | | | |
| 現状値 (指標設定時) | 高等部: 44.8% (2016 年度) 千里国際: 29.2% 平均: 37.0% | | | | | |
| 目標値 | フェーズ 1 終了時 (2021 年度) | | フェーズ 2 終了時 (2024 年度) | | フェーズ 3 終了時 (2027 年度) | |
| | | | | | — | |
| 実績値 | 2019 年度 | 高等部: 43.5% 千里国際: 41.2% | 2022 年度 | | 2025 年度 | |
| | 2020 年度 | 高等部: 40.6% 千里国際: 17.1% | 2023 年度 | | 2026 年度 | |
| | 2021 年度 | 高等部: 38.3% 千里国際: 31.7% | 2024 年度 | | 2027 年度 | |

指標 2

| 指標 | 内容 | | | | | |
|----------------|-------------------------------------|---|----------------------|--|----------------------|--|
| 指標名 | 社長・役員の卒業生のうち内部進学者比率 | | | | | |
| 定義・算式 | 卒業生の社長・役員のうち内部進学者 ÷ 卒業生の社長・役員 × 100 | | | | | |
| 現状値 (指標設定時) | 高等部: — 千里国際: — 平均: — | | | | | |
| 目標値 | フェーズ 1 終了時 (2021 年度) | | フェーズ 2 終了時 (2024 年度) | | フェーズ 3 終了時 (2027 年度) | |
| | | | | | — | |
| 実績値 | 2019 年度 | — | 2022 年度 | | 2025 年度 | |
| | 2020 年度 | — | 2023 年度 | | 2026 年度 | |
| | 2021 年度 | — | 2024 年度 | | 2027 年度 | |

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「特長ある一貫教育の創出」

提出日 2023年2月8日

| | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 長期戦略テーマの責任者 (統轄部署) | 常任理事(一貫教育) 林 隆敏 (総務部) |
|-----------------------|-----------------------------|

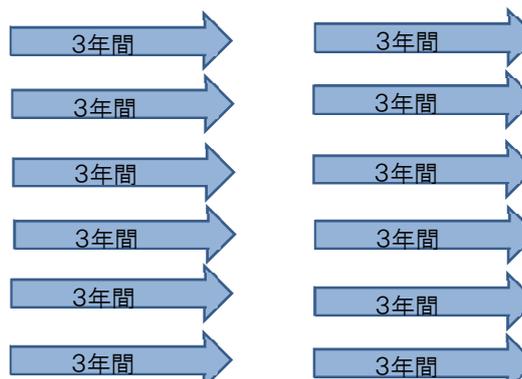
2. 実施計画ロードマップ

| 実施計画 | | 担当部署 | | 学部・研究科での 取組み有/ 無 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 |
|-------|---|---------|------------|------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ① | 初等部、中学部、高等部、千里国際における連携強化 | 総務 | | 必要なし | 3年間 | | | 3年間 | | | | | |
| ② | 千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討 | 千里(SIS) | | 必要なし | 3年間 | | | 3年間 | | | | | |
| ③ | 高等部生の「学びの先取り」の具体的検討と推進 | 総合企画 | 学長室(大) 高等部 | 必要なし | 3年間 | | | 3年間 | | | | | |
| ④ | 「大学生メンター制度」の導入 | 学長室(大) | 各学校 | 必要なし | 3年間 | | | 3年間 | | | | | |
| ⑤ | “AI活用 for SDGs”「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」～Society 5.0に向けたWWLCリーディング・プロジェクト～ | 高等部 | | 必要なし | 3年間 | | | 3年間 | | | | | |
| ⑥ | ひょうごスタートアップアカデミーへの参画 | 高等部 | | 必要なし | | | | 3年間 | | | | | |
| ⑦ | | | | 必要の有無を選択ください。 | | | | | | | | | |
| ⑧ | | | | 必要の有無を選択ください。 | | | | | | | | | |
| 【備考欄】 | | | | | | | | | | | | | |

※想定される実施計画の例示

- ① 初等部、中学部、高等部、千里国際における連携強化
- ② 千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換
- ③ OISと学院内各学校による融合プログラムの開発
- ④ 高等部生の「学びの先取り」制度の具体的検討
- ⑤ 「大学生メンター制度」の導入
- ⑥ 学院内各学校間の共同・融合プログラムの開発と実施
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

※ロードマップ策定作業用記号



I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「特長ある一貫教育の創出」

提出日 2023年2月8日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)常任理事(一貫教育)
林 隆敏
(総務部)

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

| 費用計画・人員計画 (単位：万円) | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 経費合計 | 非公開 | | |
| 人件費合計 | | | |
| 総計(経費+人件費) | | | |

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

| 費用計画・人員計画 (単位：万円) | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 経費合計 | 非公開 | | |
| 人件費合計 | | | |
| 総計(経費+人件費) | | | |

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

| 費用計画・人員計画 (単位：万円) | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 経費合計 | 非公開 | | |
| 人件費合計 | | | |
| 総計(経費+人件費) | | | |

4. 進捗状況等記入欄

| | 進捗状況および今後の課題、方向性 |
|--------|--|
| 2019年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・4-(4)-①初等部、中学部、高等部、千里国際における連携強化： K.G. キャリアキャンプの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。今後、合宿方式ではないオンラインセミナー等、コロナ禍において実施可能な新たな方法を検討する必要がある。 ・4-(4)-②千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討： 文科省の指導要領改訂が2020年4月から2022年4月に延期されたことに伴い、2019年度に新カリキュラムを完成することはできなかったが、2020年度の総合探究科の再編成に向けて総合探究学習の6年間のプログラム整備を行った。今後、引き続き情報収集を行いながらカリキュラム変更に伴うシステム仕様の打ち合わせも進める必要がある。 ・4-(4)-③高等部生の「学びの先取り」の具体的検討と推進： 当初計画を1年前倒して2021年度に「新たな科目」の設定を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により計画を一旦もとに戻すことにした。今後のコロナ禍の影響次第であるが、2021年度に学内調整実施、2022年度に「新たな科目」の設置を目指す。 ・4-(4)-④「大学生メンター制度」の導入： 高等部1年生20名を対象に大学生メンター7名が英語科目のサポートを実施した。今後は中学部での導入に向けて検討を開始する。 ・4-(4)-⑤“AI活用 for SDGs”「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」～Society 5.0に向けたWWLCリーディング・プロジェクト～： 新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業が一部あるが、その他は予定通り実施。課題としては、AIプログラムにおける、「AI for SDGs」の視点で課題研究に取り組む生徒への支援が浮き彫りとなり、2020年度以降、担当人員の補充も含めた対応を検討する必要がある。 |

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「特長ある一貫教育の創出」

提出日 2023年2月8日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

常任理事(一貫教育)
林 隆敏
(総務部)

| | |
|--------|--|
| 2020年度 | <p>・4-(4)-①初等部、中学部、高等部、千里国際における連携強化： 昨年度に引き続き、コロナ禍により合宿方式の K.G. キャリアキャンプは開催できなかったが、次のとおり、キャリア意識向上セミナーを開催した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「世界市民として活躍するために」：高等部2年生対象、対面形式（中央講堂）、3/9 2. 「グローバルにビジネスを行うには」：千里国際高等部3年生対象、オンライン形式、12/18・1/22・2/3・2/19 <p>今後も、コロナ禍において実施可能な方法を検討する。</p> <p>・4-(4)-②千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討： 文科省の指導要領改訂が2022年4月に延期されたことに伴い、2020年度も新カリキュラムを完成することはできなかったが、CTL (Curriculum Teaching Learning) 委員会を開催するなど改定に向けて準備を進めている。また、昨年度整備した総合探究型授業は、2022年度に文科省の決定により正式導入される予定であるが、先駆けて実施した。</p> <p>・4-(4)-③高等部生の「学びの先取り」の具体的検討と推進： 今後のコロナ禍の影響次第であるが、2021年度に学内調整実施、2022年度に「新たな科目」の設定をめざしている。具体的な「新たな科目」は、WWL 関連科目及び AI 活用人材育成プログラム（入門科目）の設定をめざす。なお、高等部生の「科目等履修生としての受講」機会拡大のため、単位認定プロセス等の整備に向けて検討を進める。</p> <p>・4-(4)-④「大学生メンター制度」の導入： コロナ禍による準備の遅れ及び大学生メンター募集が難航したため、高校1年生のみを対象とし、3学期に4回のみ実施という、昨年度よりも小規模の実施となった。しかしながら、昨年度の反省を踏まえて、使用教材をより自律型のものに変更し、メンターの人数は5名と減ったにもかかわらず、対象人数を30名に増やした形で実施することができた。</p> <p>・4-(4)-⑤ “AI 活用 for SDGs” 「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」～Society 5.0に向けた WWLC リーディング・プロジェクト～： 新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業が一部あるが、オンラインを活用して様々なプログラムを実施した。また、拠点校プログラムにおいては、昨年度から課題となっていた事業連携校への働きかけとして教員・生徒それぞれを対象としたオンライン交流会を実施した。なお、WWL 事業の委託期間が終了となる2021年度以降の AL プログラムについて、各プログラムの継続可否も含め見直しを行う必要がある。</p> |
| 2021年度 | <p>・4-(4)-①初等部、中学部、高等部、千里国際における連携強化： 昨年度に引き続き、コロナ禍により合宿方式の K.G. キャリアキャンプは開催できなかった。</p> <p>・4-(4)-②千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討： 新カリキュラムが完成した。2022年度より新指導要領に基づくカリキュラムとして運用していく。2022年度より新重点戦略を実行していく。</p> <p>・4-(4)-③高等部生の「学びの先取り」の具体的検討と推進： ・2021年4月現在の高等部生の履修状況（大学の授業科目）を確認したところ、次のとおりであった。 ※大学の多くの科目がオンラインでの提供となったため、希望生徒が減少した 【高大連携科目（総合政策トピックスA）受講者（科目等履修生）】3年生2名 【高大連携科目（PBL 特別演習）受講者（科目等履修生）】3年生2名 【大学3・4時限 英語インテンシブ 参加者】3年生5名</p> <p>・「新たな科目」として、2022年度より AI 活用人材育成プログラム（入門科目）を提供することが決定された。</p> <p>・2022年度より高等部長が推薦した生徒について、高等部生の「科目等履修生としての受講」のためのプロセス等の整理を行った。</p> <p>・4-(4)-④「大学生メンター制度」の導入： 2021年度も前年度同様、コロナ禍により大学生メンターを集めることが難しく、結果的に多数の教員に入ってもらいながら、高校1・2年生を対象に教材の検証を中心とした実施となった。これまでの検証により、安定した運営管理体制を教員のみで構築することは難しいと判断し、業務委託の検討に入った。数社との交渉の結果、学習指導の面で本施策との事業親和性が高く、関西学院への理解度も高い、特定非営利活動法人ブレインヒューマニティーをパートナーとして選定し計画を進めた。</p> <p>・4-(4)-⑤ “AI 活用 for SDGs” 「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」～Society 5.0に向けた WWLC リーディング・プロジェクト～： コロナ禍ではあったがオンライン等を活用し、様々なプログラムを実施した。また、拠点校プログラムにおいては、昨年度に引き続き事業連携校への働きかけとして教員・生徒それぞれを対象としたオンライン交流会を実施した。千里国際高等部については、フィールドスタディを開始した。なお、WWL 事業委託期間が2021年度をもって終了したことに伴い、AL プログラムと千里国際高等部のプログラムについては、従来どおり各部署で管轄して実行していく。</p> |

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2023年2月8日

テーマ「特長ある一貫教育の創出」

| | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 長期戦略テーマの責任者 (統轄部署) | 常任理事(一貫教育) 林 隆敏 (総務部) |
|-----------------------|-----------------------------|

| | |
|--------|--|
| 2022年度 | |
| 2023年度 | |
| 2024年度 | |
| 2025年度 | |
| 2026年度 | |
| 2027年度 | |